

小音3

2022年度 芸術系教科担当教員等 全国研修会 テーマ別研修の内容
小学校音楽科 分科会 【実施日】令和5年2月13日

(別紙3-2)

担当大学	東京藝術大学		
講 師	三宅悠太（作曲家） 市川恵（東京藝術大学特任准教授）		
対 象	小学校音楽科担当教員等	定 員	参集 30名
			オンライン 30名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	「歌唱」と「音楽づくり」の関連を図った授業展開：曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに着目して		
研修内容の概要	本研修では、「歌唱」と「音楽づくり」の相互の関連を図った授業展開の可能性や課題を探究するとともに、講師による具体的な実践提案を体験することを通して、学習改善，指導改善に結びつく視点や方法を学ぶ。		
	[学習指導要領との関連] 小学校音楽科：「A表現」(1)ア，イ，ウ，（3）ア，イ，ウ，〔共通事項〕		
内容と方法	本研修では、講師の実践提案による「歌唱」と「音楽づくり」の相互の関連を図った学習展開を受講生一人一人が経験し、それを授業にどのように活かしていくかについて学ぶ。具体的には，《いのちのうた》（作詞：Miyabi 作曲：村松崇継 編曲：三宅悠太）を取り上げ、楽曲の「要」となるリズムの反復や変化に着目し、それが楽曲のなかでどのような効果を生んでいるのかを理解したり、他の楽曲ではどのように活かされているのかを比較したりする。そして、楽曲から音楽づくりの発想を得て、各自でリズム創作を行い、発表する。その後、歌唱活動へ接続し，〔共通事項〕の「音楽を形づくっている要素」を手掛かりとして、どのように歌唱表現を深めていくのかを探究する。		
到達目標	1 各学校の子どもの実態に応じて，〔共通事項〕を要とした各領域や分野の関連を図った題材構成を工夫することができる。 2 授業改善に向けて，〔共通事項〕を要とした各領域や分野の関連を図った題材の指導展開に生かせる視点と方法を考察することができる。		
スケジュール	09:30～11:45	開講式，全体研修，理論研修（教科別：文化庁による進行）	オンライン配信
	13:00～13:10	オリエンテーション	リアルタイム
	13:10～13:30	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに着目した歌唱活動	リアルタイム
	13:30～14:15	楽曲の秘密を探ろう（基本編）：リズムの反復と変化への着目	リアルタイム
	14:15～14:30	休憩	
	14:30～15:10	個人でのリズム創作と全体への共有	リアルタイム／グループワーク
	15:10～15:25	楽曲の秘密を探ろう（発展編）：非和声音への着目	リアルタイム
	15:25～15:45	「音楽を形づくっている要素」を手掛かりとした歌唱表現の探究	リアルタイム
	15:45～16:00	質疑応答	リアルタイム
	16:20～16:40	全体講評（教科別：文化庁による進行）	オンライン配信
教材・持ち物等	筆記用具		
特記事項	○事前・事後課題の有無：特になし ○資料の配布方法： 研修会専用ホームページよりダウンロード ○受講する上での環境条件等：オンライン参加の方は，極力，カメラをオンの状態にてご参加いただきますようお願いいたします。		

小音4

2022年度 芸術系教科担当教員等 全国研修会 テーマ別研修の内容
小学校音楽科 分科会 【実施日】 令和5年2月13日

担当大学	エリザベト音楽大学			
講 師	寺内大輔（広島大学准教授） 中谷政文（エリザベト音楽大学講師）			
対 象	小学校音楽科担当教員等	定 員	参集	40名
			オンライン	0名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	音楽づくり指導の要点ー「音遊びや即興的に表現する」活動から「音を音楽へと構成する」活動へのつながりに焦点を当ててー		
研修内容の概要	学習指導要領では、音楽づくり活動は、「音遊びや即興的に表現する」活動を主とした「(ア)」の活動と、「音を音楽へと構成する」活動を主とする「(イ)」の活動から成り、それらのつながりについても配慮する必要があるとされています。本講習では、様々な活動を実際に体験しながら、「(ア)」の活動と「(イ)」の活動とのつながりを捉えていただければと思います。		
	[学習指導要領との関連] 小学校音楽科：A 表現 （3）音楽づくり ア(ア)(イ) イ(ア)(イ) ウ(ア)(イ)〔共通事項〕		
内容と方法	音楽づくり活動の体験：小学校での授業を想定した活動を実際に体験していただきながら、その背景にある理論と一緒に確認していきます。リズムパターンを組み合わせる活動や、音階をもとして音楽をつくる活動を、打楽器などを用いて取り上げます。演習7割，座学3割程度の見込みです。		
到達目標	音楽づくり活動の要点を理解し，自信をもって指導できるようになる。		
スケジュール	09:30～11:45	開講式、全体研修、理論研修（教科別：文化庁による進行）	オンライン配信
	13:00～13:10	オリエンテーション	対面／（ハイブリッド）
	13:10～14:30	音楽づくり活動の体験	対面／（ハイブリッド）
	14:30～14:45	休憩	
	14:45～15:20	音楽づくり活動の体験	対面／（ハイブリッド）
	15:20～15:50	音楽づくり活動設定の要点	対面／（ハイブリッド）
	15:50～16:00	質問とまとめ	対面／（ハイブリッド）
	16:20～16:40	全体講評（教科別：文化庁による進行）	オンライン配信
教材・持ち物等	小学校現場で使えるような，何か音の出るものをお持ちください（楽器でも，楽器でなくてもかまいません）。 特にお持ちでなければ手ぶらでお越しいただいてもかまいません。		
特記事項	○事前・事後課題の有無：無 ○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○受講する上での環境条件等：感染対策にご協力お願いします。体調がすぐれない場合は参加をお控え下さい。 ○昼食持参可。近隣の店舗、飲食店のご案内があります。		

小図3

2022年度 芸術系教科担当教員等 全国研修会 テーマ別研修の内容
小学校図画工作科 分科会 【実施日】令和5年2月13日

担当大学	東京造形大学			
講 師	前半(実技):酒匂克之准教授 石賀直之教授 後半(理論):石賀直之教授 酒匂克之准教授			
対 象	小学校図画工作科担当教員等	定 員	参集	15名
			オンライン	0名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	「場の発想、場の変容、場の創出」考え方がわかる！ 場所や空間を生かした高学年の造形遊びの指導とICTの活用			
研修内容の概要	自分自身を取り囲む環境とは一体どのようなものか、造形的な視点での「場所や空間の意味」とその価値に気づくための考え方、環境を生かした造形活動を通して学べることやその学習の流れについて、事例を見ながら理解していきます。その後、小グループを作り場所や空間を生かした造形活動を行います。実際の活動を通して、活動の過程で生まれる発想や、考えや思いの方向性の再検討といった高学年の造形遊びに見られる学習のあり方について、講師と対話をしながらさらに理解を深めていきます。その後、受講者同士のグループディスカッションにおいて高学年の造形遊びの具体的な題材のあり方について議論していきます。なかなか取り上げられる機会が少ない場所や空間を生かした造形遊びの本質的な考え方についてより深く学んでいきます。また、高学年の造形遊びにおけるICTの効果的な活用の仕方についても具体的事例をもとに体験していきます。			
	[学習指導要領との関連] 小学校図画工作科：第5学年及び第6学年 A表現(1)ア(2)ア B鑑賞(1)ア 〔共通事項〕(1)アイ			
内容と方法	前半 実技講習 酒匂克之准教授 石賀直之教授 1) 場所や空間の概念やその特徴の気付き方、場や空間の変容の意味や価値、環境を生かした造形活動におけるICTの具体的な活用方法について理解する。 2) 大学内の様々な空間を生かして活動を行う。 3) 互いの活動を見ながら振り返りを行う。 後半 理論講習 石賀直之教授 酒匂克之准教授 1) 前半の講習と学習指導要領の関連について理解する。 2) 高学年の造形遊びの具体的な題材のあり方についてグループディスカッションを行う			
到達目標	○造形遊びにおける場所や空間の意味とその価値に気づくための考え方を理解する。 ○環境を生かした造形活動を通して学べることやその学習の流れについて理解する。 ○活動の過程で生まれる発想や、考えや思いの方向性の再検討といった高学年の造形遊びに見られる学習のあり方を理解し、その指導法について学ぶ。 ○高学年の造形遊びにおけるICTの効果的な活用の仕方について理解する。			
スケジュール	09:30～11:45	開講式、全体研修、理論研修（教科別：文化庁による進行）		オンライン配信
	11:45～12:00	講師紹介 会場の使用について		リアルタイム
	12:00～13:00	昼食		
	13:00～13:30	オリエンテーション 活動紹介		リアルタイム
	13:30～15:30	実技（途中10分間の休憩）		
	15:30～16:00	学習指導要領から見る実技と造形遊びとの関連		
	16:00～16:20	休憩		
	16:20～16:40	全体講評（教科別：文化庁による進行）		オンライン配信
教材・持ち物等	特になし。教材及び材料は当日配布します。			
特記事項	○事前・事後課題の有無： 特になし ○資料の配布方法： 当日配布（大学構内に本講座の学生による活動事例が展示してあります） ○受講する上での環境条件等：学食、学内コンビニエンスストア、学食スペース及び学内カフェテリア飲食スペース利用可。学外近隣には飲食店がありませんのでご注意ください。			

小図4

2022年度 芸術系教科担当教員等 全国研修会 テーマ別研修の内容
小学校図画工作科 分科会 【実施日】令和5年2月13日

担当大学	東京造形大学			
講 師	首藤幹夫 教授 小林貴史 教授			
対 象	小学校図画工作科担当教員等	定 員	参集	20名
			オンライン	0名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	あかりがつくる造形活動ー伝統芸能としての影絵から主体的・対話的で深い学びのある授業づくりへー		
研修内容の概要	前半は、はじめに伝統芸能として八王子にある影絵（写し絵）の上演を鑑賞し、あかりによる造形表現の多様性を味わうとともに、影絵の制作と投影から表現と鑑賞の関連を図った活動の可能性を探る。後半は前半の演習をもとに、学校現場の具体的な実践へとつなげることをめざして、グループごとの授業構想と発表を行う。		
	[学習指導要領との関連] 小学校図画工作科：A表現（１）イ、（２）イ　B鑑賞（１）ア　〔共通事項〕（１）ア、イ		
内容と方法	研修① ・影絵の上演を鑑賞し、闇の中であかりが生み出す表現の美しさを味わうとともに影絵の仕組みを理解する。 ・影絵の効果を想像しながら種板にはめる絵をプラスチック板に描いて制作する。 ・制作した絵を風呂（プロジェクター）を使って投影し、操作を工夫しながら互いに鑑賞する。 研修② ・影絵の体験をもとに小学校図画工作科において主体的・対話的で深い学びを大切にした具体的な活動をグループごとに検討し、授業を構想する。 ・授業構想を発表し、全体で指導のポイントを共有する。		
到達目標	表現と鑑賞の往還を可能とする種板にはめる絵の制作と風呂を使った影絵の体験をもとに、図画工作科における授業改善に向けての議論や発表を通して、主体的・対話的で深い学びのある授業づくりへの理解と実践へと繋げる。		
スケジュール	09:30～11:45	開講式、全体研修、理論研修（教科別：文化庁による進行）	オンライン配信
	11:45～13:00	講師紹介・会場の案内	
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～13:20	影絵の実演の鑑賞	
	13:20～14:00	種板にはめる絵の制作	
	14:00～14:30	風呂を使って制作した絵の投影	
	14:30～14:40	休憩	
	14:40～15:30	グループごとに影絵をもとにした授業づくりの検討	
	15:30～16:00	授業構想の発表・ふりかえり	
	16:00～16:20	休憩・会場移動	
	16:20～16:40	全体講評（教科別：文化庁による進行）	オンライン配信
教材・持ち物等	・『小学校学習指導要領解説　図画工作編』 ・筆記用具		
特記事項	○事前・事後課題の有無：　なし ○資料の配布方法：　当日配布 ○受講する上での環境条件等：　昼食には学食も利用できます。（学外近隣には飲食店がありませんのでご注意ください。）		

小図5

2022年度 芸術系教科担当教員等 全国研修会 テーマ別研修の内容
小学校図画工作科 分科会 【実施日】令和5年2月13日

担当大学	常葉大学		
講 師	1部：小倉 隆 2部：合津 正之助		
対 象	小学校図画工作科担当教員等	定 員	参集 20名
			オンライン 0名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	身近な紙を材料に用いて「造形遊び」および「感性を働かせる」、「身近な紙を材料に用いた、造形遊びをする活動を通して、感性を働かせて活動を工夫してつくることができるようにする」活動の展開（実践的な方法の提案）と言葉から表したいことを見付ける活動を活用して「絵に表す」活動に展開する授業について		
研修内容の概要	1部： SDGsの観点を踏まえ、生活の身近にある新聞紙やチラシ、再生紙などに着目し、紙を用いた「造形遊び」と、「感性を働かせて創造的につくったり表したりする活動」の展開と、題材の構想、指導方法について演習を通して修得する。 2部： 高学年を対象とした、言葉の情報から表現に展開することで、個(それぞれの違い)を知る授業を提案する。一人一人の感じ方や捉え方の違いに気付くことで、個性を認め合いながら豊かな想像力の育成につながる学習活動について考える。		
	{学習指導要領との関連} 1部 小学校図画工作科：A表現（1）ア（2）ア、 B鑑賞（1）ア 【共通事項】（1）ア、イ 2部 小学校図画工作科：A表現（1）イ（2）イ、 B鑑賞（1）ア 【共通事項】（1）ア、イ		
内容と方法	1部： 新聞紙、チラシ、再生紙の手触りや感触を確かめ、ちぎる、折る、つなげる、伝承の折り方など、手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくり、材料（紙）のよさを味わい、それぞれの紙の特徴に気づいたり、創造的につくったり表したりすることの楽しさを体全体を使って活動することにより味わう。 2部： 個性を認め合う授業の考えとその指導方法等について、授業事例と指導案により具体的に解説する。提案する授業は、発達段階に配慮した任意に選んだ絵画作品について、客観的に分析し、視覚情報のみの文章（言葉の情報）を提示する。次にその情報を基に児童各自が想像した絵を描き、それぞれの違いを理解し認め合う鑑賞学習を行い、価値観の多様性と個性を尊重する学習活動へと展開する。		
到達目標	1部： 1. 生活に身近な紙の「造形遊び」のよさと教育的意義に、気づくようになる。 2. ちぎる、折る、つなげる、伝承の折り方などを組み合わせたり工夫したりして表すなど、紙でつくり表すことの基礎的な知識・技能を修得することができる。 3. 身近な紙を材料に用いた「造形遊び」と、創造的につくったり表したりする活動の構想、指導方法を修得できるようになる。 2部： 1. 発達段階に配慮し、学習活動を理解し実践する目当てをもてる。 2. 言葉から自分のイメージを豊かにもつ。 3. 価値観の多様性と個性を尊重する学習活動を理解し、指導できる資質・能力について考える。		
スケジュール	09:30～11:45	開講式、全体研修、理論研修（教科別：文化庁による進行）	オンライン配信
	11:45～13:00	昼食および休憩	
	12:50～13:00	研修前の機材等の動作確認（担当者およびスタッフのみ）	
	13:00～13:05	研修プログラム1部、2部およびタイムテーブルの説明	対面研修
	13:05～15:00	1部：身近な紙を材料に用いて「造形遊び」および「感性を働かせる」「創造的につくったり表したりする」活動の展開について	〃
	15:00～15:05	休憩および準備	
	15:05～16:00	2部：言葉から表したいことを見付ける活動を活用して「絵に表す」活動に展開する授業について	対面研修
	16:00～16:20	休憩	
	16:20～16:40	全体講評（教科別：文化庁による進行）	オンライン配信
教材・持ち物等	通常の筆記用具等		
特記事項	○事前・事後課題の有無： 無 ○資料の配布方法： 研修当日配布 ○受講する上での環境条件等：マスクを着用し、受講生同士の間隔は十分配慮して行う。		

中高音3

2022年度 芸術系教科担当教員等 全国研修会 テーマ別研修の内容
中学校音楽科・高等学校芸術科(音楽) 分科会 【実施日】令和5年2月13日

担当大学	東京藝術大学			
講 師	西岡龍彦（作曲家・東京藝術大学名誉教授） 深水悠子（東京藝術大学特任講師）			
対 象	中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽）担当教員等	定 員	参集	30名
			オンライン	30名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	「音楽とサウンドの創作技法」ーICTで身近になった映像から発想する音楽とサウンドー		
研修内容の概要	現代の中高生は、映像や身体表現を伴った音楽への関心が高い。彼らが音楽文化に豊かに関わる能力を培うために、生徒が社会生活の中で身近に感じる音や音楽を教師も理解する必要がある。本研修では、コンピュータやICT端末、スマートフォン等を効果的に活用して（音楽や効果音の制作、収集、録音、編集など）音楽とサウンドの創作を行う。創意工夫を生かした実践的な体験を通じて、新しい視点の発見や学習改善につながる具体的な方法を学ぶ。		
	[学習指導要領との関連] 中学校音楽科：第1学年、第2学年及び第3学年「A表現」（3）ア、イ(ア)(イ)、ウ、〔共通事項〕 高等学校芸術科（音楽）：音楽Ⅰ、Ⅱ「A表現」（3）ア、イ、ウ(ア)(イ)(ウ)、〔共通事項〕 音楽Ⅲ「A表現」（3）ア、イ、ウ、〔共通事項〕		
内容と方法	本研修では、講師が実践的に提案するICTを活用した音楽創作を受講生が体験し、授業改善への新しい見方や方法を学ぶ。 ・映像を手がかりに音楽を発想する創作技術。 ・サウンドによる多様な映像表現とサウンドの制作方法。 ・映像作品における音楽とサウンドの関係の紹介及び制作方法の提案。 1) ICT端末やスマートフォンを使った簡単な音楽とサウンドの制作。 2) 映像編集と波形編集（音楽とサウンド）が簡単な操作で可能なアプリケーションの操作方法と映像作品の完成。		
到達目標	ICTを活用した音楽創作の授業組み立ての下記のような知識や技能を習得することができる。 映像のための音楽とサウンド制作の授業を計画し実践する。以下の可能性に繋げたい。 ・映像のための音楽とサウンドのグループ制作 ・映像制作の授業との共同制作・演劇、朗読やダンスなどの身体表現のための音楽 ・サウンド制作		
スケジュール	09:30～11:45	開講式、全体研修、理論研修（教科別：文化庁による進行）	オンライン配信
	13:00～13:10	研修前の操作確認・オリエンテーション	リアルタイム
	13:10～13:50	映像における音楽・サウンドの理論	リアルタイム
	13:50～14:20	録音について	リアルタイム
	14:20～14:30	休憩	リアルタイム
	14:30～14:50	映像のための音楽とサウンドの制作プラン	各自作業
	14:50～15:20	映像のための音楽とサウンド制作	各自作業
	15:20～15:40	映像編集と波形編集	各自作業
	15:40～16:00	映像作品完成の成果発表と反省	リアルタイム
	16:00～16:20	休憩	リアルタイム
	16:20～16:40	全体講評（教科別：文化庁による進行）	オンライン配信
教材・持ち物等	タブレット端末、ノートパソコン等（スマートフォンでも可）。イヤホン（任意）		
特記事項	○事前・事後課題の有無： ○資料の配布方法： ○受講する上での環境条件等：インターネット環境。オンライン参加の方は、極力、カメラをオンの状態にてご参加いただきますようお願いいたします。		

中高音4

2022年度 芸術系教科担当教員等 全国研修会 テーマ別研修の内容
中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽） 分科会 【実施日】令和5年2月13日

担当大学	東邦音楽大学			
講 師	荻久保 和明（東邦音楽大学大学院特任教授）			
対 象	中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽）担当教員等	定 員	参集	0名
			オンライン	100名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	歌唱、器楽、創作における旋律のあり方を根源的に考え直すとともに、その歌い方、奏で方、つくり方を考える。 創作において教材とする音楽について、その音楽の成り立ちやクラシック以外のジャンルの音楽との関わりを通して考える。		
研修内容の概要	教師が音楽のもつ様々な要素や特性を多角的に捕捉するとともに、授業において興味深く導入することによって、生徒が積極的に考え、意見を述べることを促す授業内容やその伝え方について考察します。		
	[学習指導要領との関連] 中学校音楽科：「A表現」(1)ア、イ(ア)、ウ(ア)(イ),〔共通事項〕、(2)ア、イ(ア)、ウ(ア)(イ),〔共通事項〕、(3)ア、イ(ア)(イ)、ウ,〔共通事項〕、「B鑑賞」(1)ア(ア)、イ(ア)(イ)(ウ),〔共通事項〕 高等学校芸術科（音楽）：音楽Ⅰ、音楽Ⅱ「A表現」(1)ア、イ(ア)、ウ(ア)(イ)(ウ),〔共通事項〕、(2)ア、イ(ア)、ウ(ア)(イ)(ウ),〔共通事項〕、(3)ア、イ、ウ,〔共通事項〕、「B鑑賞」(1)ア(ア)、イ(ア)(イ)(ウ),〔共通事項〕音楽Ⅲ「A表現」(1)ア、イ(ア)、ウ,〔共通事項〕(2)ア、イ(ア)、ウ,〔共通事項〕、(3)ア、イ、ウ(ア)(イ)(ウ),〔共通事項〕、「B鑑賞」(1)ア(ア)、イ(ア)(イ)(ウ),〔共通事項〕		
内容と方法	音楽の起源（メロディカリズムかハーモニーか） 音楽の要素（音高・音量・音色など） 音楽の分類（ワンメロディ音楽・ワンリズム音楽・ワンコード音楽） 民族音楽・JAZZ・ロックなどとの関わりを質疑応答形式・ディスカッションを通して理解を深める。 古い知識と新しい知識を関連付けて組み合わせる力ー連想する方法を模索する。		
到達目標	音楽にとって当たり前だと思っている事柄の多くをひとつひとつ問い直し、より深い所で理解・共感し、生徒の興味・関心を持たせる。 目の前にあることがらを観察し、予測し、操作する方法、考え方を学ぶ。		
スケジュール	09:30～11:45	開講式、全体研修、理論研修（教科別：文化庁による進行）	オンライン配信
	13:00～13:10	研修前の操作確認・オリエンテーション	リアルタイム
	13:10～14:20	音楽の起源・音楽の要素	リアルタイム
	14:20～14:30	休憩	
	14:30～15:40	音楽の分類と他ジャンルとの関わり	リアルタイム
	15:40～15:45	休憩	
	15:45～16:00	質疑応答	リアルタイム
	16:20～16:40	全体講評（教科別：文化庁による進行）	オンライン配信
教材・持ち物等	特になし		
特記事項	○事前・事後課題の有無： なし ○資料の配布方法： 研修会専用ホームページよりダウンロード ○受講する上での環境条件等：受講にあたっては、オーディオインターフェースを通したカメラ映像が音響的には望ましいです。		

中高音5

2022年度 芸術系教科担当教員等 全国研修会 テーマ別研修の内容
中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽） 分科会 【実施日】令和5年2月13日

担当大学	エリザベト音楽大学		
講 師	川上統（エリザベト音楽大学講師） 壬生千恵子（エリザベト音楽大学教授）		
対 象	中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽）担当教員等	定 員	参集 20名
			オンライン 20名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	デジタル・デバイスを使用した音楽づくりー基本と展開ー：STEAM教育とSDGsの将来を見据えて		
研修内容の概要	ICTを用いた音楽創作の実践		
	[学習指導要領との関連] 中学校音楽科：第1学年、第2学年及び第3学年「A表現」(3)創作 ア, イ(ア),-(イ), ウ,〔共通事項〕 高等学校芸術科（音楽）：音楽Ⅰ「A表現」(3)創作 ア, イ, ウ(ア),-(イ),〔共通事項〕		
内容と方法	<p>＜オリエンテーション・レクチャー＞</p> <p>①STEAM教育・SDGsと音楽教育の考え方</p> <p>②ICTを用いた創作の考え方と指導</p> <p>＊オリエンテーション・レクチャー②では、ICTを用いた創作を指導する際に押さえておくべきポイントや留意点について解説します。</p> <p>＜創作実践（ワークショップ形式）＞</p> <p>①iPad音楽創作アプリ（Garage Band）および音楽創作アプリ（Song Maker)の基本的な操作方法</p> <p>②音楽創作の実践（基礎）</p> <p>③音楽創作の実践（応用）</p> <p>④質疑応答、情報交換、作品発表など</p> <p>＊創作実践①では、ICT機器（音楽創作ソフト）の使用に苦手意識をもっている方を対象に、基本的な操作方法と一緒に作業をしていただきながら進めていきます。②では、ICTを用いた「音楽創作」の授業の一般的な手順を紹介しながら、実際の音楽創作に挑戦していただきます。また③応用では、さらに多様なジャンルの音楽創作の方法や実例、ヒントをご紹介します。実際に一緒に作業をしていただきながら進めていくワークショップ形式です。</p>		
到達目標	ICTを利用し、音楽創作を中心とした授業組み立てと実践に取り組めるようになる。☑		
スケジュール	09:30～11:45	開講式、全体研修、理論研修（教科別：文化庁による進行）	オンライン配信
	13:00～13:10	研修前の操作確認(セット・アップ)	対面（ハイブリッド）
	13:10～13:40	オリエンテーション・レクチャー①②	対面（ハイブリッド）
	13:40～14:40	創作実践① （基本操作と基礎：リズムパターンの打ち込みによる作曲） 創作実践② （基礎：音階を使用した創作）	対面（ハイブリッド）
	14:40～14:40	休憩	
	14:40～15:30	創作実践③（応用：録音の重ねどりによる作曲）	対面（ハイブリッド）
	15:30～16:00	質疑応答、情報交換、作品発表等	対面（ハイブリッド）
	16:20～16:40	全体講評（教科別：文化庁による進行）	オンライン配信
教材・持ち物等	全員：iPadあるいはPC、身近にある簡単な楽器 オンライン参加者：カメラ・マイクのついたIT機器		
特記事項	○事前・事後課題の有無：無 ○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○受講する上での環境条件等：インターネット環境（オンライン参加者） ○昼食持参、近隣店舗や飲食店のご案内あり（対面参加者）		

中高美 6

2022年度 芸術系教科担当教員等 全国研修会 テーマ別研修の内容
中学校美術科・高等学校芸術科（美術） 分科会 【実施日】 令和5年2月13日

担当大学	東京造形大学		
講 師	中林鉄太郎 教授（インダストリアルデザイン専攻領域） 山田猛 教授（教職課程室）		
対 象	中学校高美術科・高等学校芸術科（美術）担当教員等	定 員	参集 20名
			オンライン 0名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	言語活動からイメージや形へ ～デザインの思考プロセスの深化～		
研修内容の概要	前半は、 インダストリアルデザイン専攻の教授による言語活動から発想や構想を深める様々な手立てについてのレクチャー及び演習を通し、 言語から形やイメージへの具現化に繋げる新たな視点の獲得を目指す。後半は校種に分かれ、 前半の学びを具体的に学校現場の発想や構想の授業実践のために、 教職課程の教授によるレクチャー、 グループディスカッションやワークを行う。		
	{学習指導要領との関連} 中学校美術科：A表現(1)イ(ｱ)(ｲ)(ｳ)B鑑賞(1)ア(ｲ)イ(ｱ)共通事項（1）ア イ 高等学校芸術科（美術）：A表現(2)ア(ｱ)(ｲ) B鑑賞(1)ア(ｲ)イ(ｱ)共通事項（1）ア イ		
内容と方法	・前半講師（中林鉄太郎 教授） 言語活動を中心に、 使う目的や機能を考え、 デザインに表現する活動の発想から構想に繋げていくプロセスの演習を行う。個人やグループ活動の往還により、 発想や構想の学習指導についての視点を磨く。 ・後半講師（山田猛 教授） 前半の学びを実際の授業に応用するために、 レクチャーと演習を通して、 発想や構想の学習について深く考察する。目的や条件などを基に、 言葉で考えを整理することで、 主題を生み出したり、 形や色彩などを試行錯誤することにより構想を深めたりするなど、 発想や構想の学習のプロセスを考える。		
到達目標	相手や内容、 社会との関わりなどから言語活動を通して主題を生み出し、 機能や効果と美しさなどとの調和を総合的に考え、 発想から形やイメージへと導き構想へと繋がるプロセスについて、 新たな視点を持つ。		
スケジュール	09:30～11:45	開講式，全体研修，理論研修（教科別：文化庁による進行）	オンライン配信
	11:45～12:00	講師紹介・会場の使用について	対面リアルタイム
	13:00～13:05	オリエンテーション等	対面リアルタイム
	13:05～13:35	レクチャー① 言語活動を通した発想から構想へ（仮）	レクチャー受講
	13:35～13:55	演習① 言語活動から発想へ	各自作業
	13:55～14:15	演習② 発想から構想へのプロセス	各自・グループ
	14:15～14:30	演習③ 発想から構想のバランス・学習評価	グループワーク
	14:30～14:45	レクチャー② 言語活動・発想や構想の教育現場への応用	レクチャー受講
	14:45～15:40	演習④ 発想から構想へのプロセス	グループワーク
	15:40～16:00	全体共有	グループ発表
	16:20～16:40	全体講評（教科別：文化庁による進行）	オンライン配信
教材・持ち物等	筆記用具		
特記事項	○事前・事後課題の有無： 無 ○資料の配布方法： 研修会当日配布 ○受講する上での環境条件等：学食、学食スペース利用可。学外近隣には飲食店がありませんのでご注意ください。		

担当大学	武蔵野美術大学			
講師	三澤一実 武蔵野美術大学教職課程研究室教授			
対 象	中学校美術科・高等学校芸術科（美術）担当教員等	定 員	参集	40名
			オンライン	0名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	「知識及び技能」の実感を伴う習得と、表現と鑑賞をより豊かにする教科の本質に迫る題材開発の提案			
研修内容の概要	<p>豊かな表現及び鑑賞活動を実現させるには「思考力・判断力・表現力等」と共に、その活動を支える「知識及び技能」の習得が不可欠です。この研修では学習指導要領が示す「知識及び技能」について、誰もが楽しく興味を持って取り組めるような授業づくりを体験します。内容は、参考になる授業の事例を紹介し、多彩な表現や鑑賞の活動につながる「知識及び技能」の実感的な理解や身に付け方について簡単なワークショップや演習を通して学びます。中学校においては小学校「造形あそび」で身に付けた資質能力の発揮のさせ方、高等学校についてはSTEAM 教育との関連も見い出しながら教科の本質に迫ります。</p> <p>また、授業にすぐに取り入れられるような指導と評価の在り方も紹介し、これからのデジタル社会でも応用できる考え方を身に付けることについてや、「知識及び技能」の習得と実践的な活用についてなど、学習指導要領の考え方を具体的な実践に結び付けて分かりやすく学べる研修です。</p>			
	<p>〔学習指導要領との関連〕</p> <p>中学校、高等学校ともに主として造形的な視点を豊かにするために必要な知識として〔共通事項〕の習得に関連する内容であるが、学習指導要領に示された A 表現の「技能」及び「思考力・判断力・表現力等」、B 鑑賞の「思考力・判断力・表現力等」と、幅広く関連がある。</p>			
内容と方法	<p>① デジタル社会における美術の「知識及び技能」とは</p> <p>時代が変化しても変わらない美術の知識として、造形物を形づくる要素（造形的な視点）について学び、その知識をデジタル的な思考と結び付け、これからの美術の学び方を理解していきます。</p> <p>② 「知識及び技能」の実感を伴う習得と教科の本質に迫る考え方</p> <p>具体的な鑑賞と表現の事例をもとに知識の実感を伴う習得方法とその学習評価の仕方について学びます。</p> <p>③ 理解を深めるワークショップ</p> <p>「②」の考え方について更に理解を深めるために、ワークショップを通して身近なものや作品などを使って共通のテーマで制作等を行い、制作された作品などを相互に鑑賞することを通して実感的に把握します。</p> <p>④振り返り</p> <p>明日からの授業実践に取り入れられるように、研修を通しての学びを振り返り整理します。</p>			
到達目標	<p>・〔共通事項〕に示されている「知識」と、「造形的な見方・考え方」を、ワークショップを通して実感的に理解し授業づくりに生かすことができる。</p> <p>・中学校美術では、小学校「造形あそび」で身に付けた資質能力の発揮のさせ方、高等学校についてはSTEAM 教育との関連を見いだす事ができる。</p>			
スケジュール	09:30～11:45	開講式、全体研修、理論研修（教科別：文化庁による進行）		オンライン配信
	13:00～13:15	研修前の操作確認・オリエンテーション		
	13:15～14:30	講義①デジタル社会と美術教育 講義②造形実験の具体的事例紹介		講義
	14:30～14:40	休憩		
	14:40～15:00	ワークショップ…造形的な実験をしてみる （身の回りにある小物を使っての表現や、紙にドローイングするなど）		各自作業
	15:00～15:40	制作物の鑑賞 - 学びの確認		グループワーク
	15:40～16:00	まとめ		講義
	16:20～16:40	全体講評（教科別：文化庁による進行）		オンライン配信
教材・持ち物等	デジカメ、スマートフォン、タブレットなど撮影器機 ハサミ、カッターナイフなど 鉛筆など筆記用具			
特記事項	<p>○事前・事後課題なし。</p> <p>○資料の配布方法： 研修会専用ホームページよりダウンロード</p> <p>○受講する上での環境条件等： 特になし。</p>			

担当大学	武蔵野美術大学		
講 師	□造形構想学部 クリエイティブイノベーション学科研究室 長谷川敦士教授、井口博美教授、石川卓磨講師、山本麻璃絵助教、小山さくら助教 □造形学部 教職課程研究室 大坪圭輔教授		
対 象	中学校美術科・高等学校芸術科（美術）担当教員等	定 員	参集 40名
			オンライン 0名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	創造的「思考力、判断力、表現力」を基軸とした新しい共創型デザイン教育		
研修内容の概要	美術とデザインはその専門領域や職能的に異なるところに目が行きがちだが、その教育的視点から美術及びデザインに通底する”造形教育”の礎があると考えられる。これまでの中高における美術教育では、時間的・空間的制約から絵画やデザイン等の作品づくりを通した「表現」や「鑑賞」に重点を置いた教育内容が一般的であったが、むしろ”造形教育”を通して育まれる創造的「思考力、判断力、表現力」こそ重要である。本研修では、その先行的デザイン教育の方法論を実践的に体験し、「思考力、判断力、表現力」における発想や構想の能力を中心として、生徒が自己実現を果たしていく態度の形成を図る指導について考える。		
	{学習指導要領との関連} 中学校美術科：A表現(1)ア(ア), イ(ア)(イ)(ウ),〔共通事項〕アイ 高等学校芸術科（美術Ⅰ～Ⅲ）：A表現(1)絵画・彫刻ア(ア)(イ), (2)デザイン ア(ア)(イ),〔共通事項〕アイ 「思考力、判断力、表現力等」については、中学校美術科および高等学校芸術科（美術）の場合、具体的には発想や構想の能力と鑑賞の能力を指すが、ここでは、先行的なデザイン教育の方法論を実践的に体験することで、発想や構想に関する資質・能力を中心として、より効果的な指導方法を検討する。		
内容と方法	①理解を深めるための実践的ワークショップ「未来社会をイノベーションする植物(WS)」（石川卓磨講師） 植物が人間社会のために変化を起こすをテーマとして発想し、明るい前向きな変革のイメージだけに限定せず、批評的な意味も構想力として意識しながら「未来」に想いを巡らせる感性と論理をつなぐワークショップを行う。具体的にはグループワークと発表、講評を行い、議論を深める。 ②これからの社会におけるアート教育とデザイン教育（長谷川敦士教授） ここ数年、アート思考、デザイン思考といった考え方がよく聞かれるようになってきた。これは社会の変化によって、様々な考え方が大切にされてきているということなのではないだろうか。ここでは、社会の変化とそのときのアート、デザインの役割について概説する。		
到達目標	・変化の激しい時代における新しいアート教育とデザイン教育の関係性とそのあり方等について理解する。 ・汎用的に拡がっている「デザイン思考」の方法論を理解し、その活用方法を考えることができる。 ・初等教育～高等教育における「STEAM教育」との関連性や応用方法を見出すことができる。 ・従来の美術教育に共創型デザイン教育を取り入れ、ニーズが高まっている「探究型授業」の具体的プログラムを考えることができる。		
スケジュール	09:30～11:45	開講式、全体研修、理論研修（教科別：文化庁による進行）	オンライン配信
	11:45～13:00	昼休み	
	13:00～13:05	オリエンテーション	
	13:10～15:30	①未来社会をイノベーションする植物（WS）	ワークショップ
		5名/G×8グループに分かれてのグループ作業	
	15:40～15:15	プレゼンテーション（＋講評）	発表・講評
		1 G（3分発表＋1分講評）×8グループ	
	15:15～15:45	②これからの社会におけるアート教育とデザイン教育（講義＋総評）	講義
	15:45～16:00	学習指導要領との関連(大坪)	まとめ
	16:20～16:40	全体講評（教科別：文化庁による進行）	オンライン配信
教材・持ち物等	【大学 準備】ワークショップに必要な文具類 （ポストイット各種・各色、サインペン各色、スケッチ用紙、筆記具等） 【受講者準備】ノートブックPCもしくはタブレット（※できれば持参）		
特記事項	○事前・事後課題の有無： 無 ○資料の配布方法： 研修会専用ホームページよりダウンロード ○受講する上での環境条件等： 無		

担当大学	女子美術大学			
講 師	阿部大介（女子美術大学准教授） 鈴木淳子（女子美術大学教授）			
対 象	中学校美術科・高等学校芸術科（美術）担当教員等	定 員	参集	20名
			オンライン	0名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	版画表現の広がりとその魅力ー「版」の展開			
研修内容の概要	版画は、「版」と「刷」の違いから様々な版種や技法があり、間接的表現を特性としている。本研修では、「版」の多様性に着目し、凹版のコラグラフ、紙メゾチントを取り上げる。コラグラフ、メゾチントの製版の方法や制作過程における版材や技法について紹介するとともに、独自性のある版画表現の魅力について解説する。			
	〔学習指導要領との関連〕 中学校美術科：２内容Ａ表現(１)ア(ア)、(２)ア(ア)(イ)、〔共通事項〕アイ 高等学校芸術科（美術）：美術Ⅰ　３内容Ａ表現(1)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、〔共通事項〕、美術Ⅱ　３内容Ａ表現(1)ア(ア)(イ)、イ(ア)、〔共通事項〕アイ、美術Ⅲ　３内容Ａ表現(1)ア(ア)、イ(ア)、〔共通事項〕アイ			
内容と方法	講義では、版画表現の独自性とその魅力について、版画の原理、「版」の展開に焦点を当てながら作品を鑑賞し、版材や技法について解説する。実技研修では、受講者各自が凹版のコラグラフ作品を制作する。コラグラフの製版、プレス機刷りを行ない、作品完成後に全体で鑑賞する。さらに応用編として、中学校美術科、高等学校芸術科（美術）の授業に取り入れることができる、金属を使わない紙メゾチントの方法を紹介する。			
到達目標	凹版のコラグラフや紙メゾチントなど版画技法のアイデアや工夫を取り入れた指導法を習得し、版画を題材にした指導計画の作成及び技能に関する指導に生かすとともに、生徒一人一人の創造的な表現を引き出す授業づくりを目指す。			
スケジュール	09:30～11:45	開講式、全体研修、理論研修（教科別：文化庁による進行）		オンライン配信
	11:45～13:00	昼食		
	13:00～13:10	オリエンテーション　「研修テーマと趣旨について」		リアルタイム
	13:10～13:30	講義　「版画の魅力ー自作とコラグラフについて」　阿部大介		リアルタイム
	13:30～14:20	実技研修　①コラグラフの製版		各自作業
	14:20～14:40	「紙メゾチント」の技法紹介		リアルタイム
	14:40～14:50	休憩		
	14:50～15:40	実技研修　②刷り		各自作業
	15:40～16:00	作品鑑賞・まとめ		リアルタイム
	16:00～16:20	移動、休憩		
	16:20～16:40	全体講評（教科別：文化庁による進行）		オンライン配信
教材・持ち物等	筆記用具、汚れていい服装（エプロン、作業着）			
特記事項	○事前課題：コラグラフの下絵。紙に黒の描画材を用いて下絵を作成して下さい。抽象、具象は問いません。サイズ 21×28cm　（縦横自由） ○資料の配布方法：テーマ別研修に関する資料は、研修会場で配布する。 ○受講する上での環境条件等：無			

中高美10

2022年度 芸術系教科担当教員等 全国研修会 テーマ別研修の内容
中学校美術科・高等学校芸術科（美術） 分科会 【実施日】令和5年2月13日

担当大学	常葉大学			
講 師	1部：合津 正之助 2部：長橋 秀樹			
対 象	中学校美術科・高等学校芸術科（美術）担当教員等	定 員	参集	20名
			オンライン	0名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	絵に表現する活動を通して、言語活動の充実を図り、対象を見つめ感じ取った形の特徴や美しさを捉える授業づくりについて			
研修内容の概要	<p>1部：</p> <p>中学生や高校生の時期の発達を踏まえ、対象から感じ取ったことや考えたことを話し合い、それを表現に生かすことで、一人一人の感じ方や捉え方の違いや表現の多様性に気付き、個性を認め合いながら思考力、判断力、表現力等の資質・能力の育成につなげる。</p> <p>2部：</p> <p>近年、学校現場でICT端末が導入されつつあり、授業でも活用されてきている。美術科，芸術科（美術，工芸）においては，ICTを活用する学習活動と，実物を見たり，実際に対象に触れたりするなどして感覚で直接感じ取らせる学習活動とを，題材のねらいに応じて吟味し，ICT端末を効果的に用いて指導を行うことが重要である。 本研修では、「見ること」を大切にし、対象を見つめ感じ取った形の特徴や美しさを捉えることについて考える。</p>			
	{学習指導要領との関連}			
	1 部：中学校美術科：A表現(1)ア(2)ア B鑑賞 (1)ア 〔共通事項〕(1)アイ 高等学校芸術科（美術）：A表現(1)ア、(ア)(イ) イ(イ) B鑑賞(1)ア(ア) 〔共通事項〕(1)アイ 2 部：中学校美術科：A表現(1)ア、(2)ア B鑑賞(1)ア 〔共通事項〕(1)アイ 高等学校芸術科（美術）：A表現(1)ア(ア)(イ)、イ(ア) B鑑賞(1)ア(ア) 〔共通事項〕(1)ア、イ			
内容と方法	<p>1部：</p> <p>実践授業事例から、互いのよさや個性などを認め尊重し合う授業づくりについて考える。例えば、生徒の発達に応じた美術作品を鑑賞し、その作品について言葉で表す。次に、その言葉から想像したことを絵で表現し、その作品を鑑賞し合い、お互いの作品のよさや違い、表現の意図や工夫などについて話し合う。このような授業実践から、互いの作品のよさや特徴などを認め合う授業づくりにはどのような工夫が必要なのかを話し合いを通して考えていく。</p> <p>2部：</p> <p>対象となる人物を深く見つめ感じ取ったことや考えたことを、短時間に線描で表現する演習を行う。その際、表現と鑑賞の活動の演習を通して、作品から感じ取ったり考えたりしたことについて話し合い、表現の意図や工夫を発表しあったりお互いのよさや個性などを尊重したりするなど言語活動の充実を図る。</p>			
到達目標	<p>1部：</p> <ul style="list-style-type: none">・生徒の発達の段階に配慮し、表現や鑑賞の活動を通して、育成する資質・能力について確認し、題材の目標について考える。・言葉から考えられるものを想像したり、作品について説明し合ったりして、言語活動の充実を図る。・一人一人の感じ方や捉え方の違いや表現の多様性に気付き、個性を認め合いながら思考力、判断力、表現力等の資質・能力の育成につなげる。 <p>2部：</p> <ul style="list-style-type: none">・対象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさを捉える演習から、指導方法など授業づくりについて考える。・多様な表現方法に気付くことで、材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すことに対する指導につなげる。・五感等の体全体を通して、自分の感覚を大切にしたい表現の工夫について考える。			
スケジュール	09:30～11:45	開講式、全体研修、理論研修（教科別：文化庁による進行）		オンライン配信
	11:45～13:00	昼食および休憩		
	12:50～13:00	研修前の機材等の動作確認（担当者およびスタッフのみ）		
	13:00～13:05	研修プログラム1部、2部およびタイムテーブルの説明		対面研修
	13:05～15:00	1部：言語活動を活用して絵画制作に展開する授業について		〃
	15:00～15:05	休憩および準備		
	15:05～16:00	2部：線描による対象把握（クロッキー）のための実践と考察について		対面研修
	16:00～16:20	休憩		
	16:20～16:40	全体講評（教科別：文化庁による進行）		オンライン配信
教材・持ち物等	・通常の筆記用具等 ・クロッキーを行うため、使い慣れた描画材（紙類は準備します。）があれば、持参してください。			
特記事項	○事前・事後課題の有無： 無 ○資料の配布方法： 研修会当日に配布 ○受講する上での環境条件等：マスクを着用し、受講生同士の間隔は十分配慮して行う。			

中高美11

2022年度 芸術系教科担当教員等 全国研修会 テーマ別研修の内容
中学校美術科・高等学校芸術科（美術） 分科会 【実施日】令和5年2月13日

担当大学	金沢美術工芸大学			
講 師	大森 啓（金沢美術工芸大学・教授） （進行：桑村佐和子（金沢美術工芸大学））			
対 象	中学校美術科・高等学校芸術科（美術）担当教員等	定 員	参集	20名
			オンライン	0名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	平面なのに立体？パズルで考える		
研修内容の概要	本研修では「美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う」ことに重点を置いた授業の展開について考える。文中の「喜び」「感性」「創造」「情操」等の根源にあるのは「不思議や違和感への気付き」「発見の興奮」「実現の達成感」といった大小様々な心の振幅であると考えられるだろう。その心の揺れを促すため、現在自明のこととして扱われている「絵画（平面）上で立体を表現する（できる）」ことの不思議さや、その表現に触れたときの喜びに光を当て、「当たり前ではない」ことに気付く感性と「新たな可能性」を探求する創造力を培う授業展開を考える。		
	{学習指導要領との関連} 中学校美術科：A表現(1)ア(ア) (2)ア(ア)(イ) B鑑賞 (1) イ(ア)(イ) 〔共通事項〕(1)アイ 高等学校芸術科（美術）：A表現(1)ア(ア)(イ) イ(ア)(イ) B鑑賞(1)イ(ア)(イ) 〔共通事項〕(1)アイ		
内容と方法	①レクチャーを通して（絵を描くことに慣れている人ほど忘れがちな）「絵画（平面）上で立体を表現する（できる）」こと の不思議さを再確認・共有する。 ②中学校美術で取り組まれている「等角投影図による立体的な表現」の応用として、描かれた立体をバラバラに切り離し、パ ズル遊びへと展開する。 ③本課題が持つ「描写・思考・遊戯」の3要素を意識し、学年や発達段階、また個人の興味を想定した展開や新たな遊び方を 考える。 ④授業展開のプレゼンと振り返りを行う。		
到達目標	参加者（教員）自身が美術（今回は特に絵画表現）の不思議さに改めて気付き、驚き、喜べる。 具体的な生徒像を想定して、それぞれの学校の実態に合わせ得た題材設定を想像できる。 社会全体の豊かな生き方が日常の些細な発見や工夫の喜びに根ざすことと、その醸成に教科としての「美術」が資することを 再認識する。		
スケジュール	09:30～11:45	開講式、全体研修、理論研修（教科別：文化庁による進行）	オンライン配信
	13:00～13:10	研修前の操作確認・オリエンテーション	リアルタイム
	13:10～13:40	講義	リアルタイム
	13:40～14:30	演習（パズル制作）	各自作業
	14:30～15:00	演習（グループディスカッション）	グループワーク
	15:00～15:10	休憩	リアルタイム
	15:10～15:40	発表（個人・グループ）	リアルタイム
	15:40～16:00	全体の振り返り	リアルタイム
	16:20～16:40	全体講評（教科別：文化庁による進行）	オンライン配信
教材・持ち物等	事前に、準備してほしい道具、材料等をお知らせします。特別な道具等は必要ありません。		
特記事項	○事前・事後課題の有無：特にありません。 ○資料の配布方法： 研修会専用ホームページよりダウンロード ○受講する上での環境条件等：		

高書2

2022年度 芸術系教科担当教員等 全国研修会 テーマ別研修の内容
高等学校芸術科（書道） 分科会 【実施日】令和5年2月13日

担当大学	愛知教育大学			
講 師	衣川彰人(愛知教育大学教授) 鍋島稲子（台東区立書道博物館主任研究員） 加藤眞太郎（愛知県立松蔭高等学校教諭）			
対 象	高等学校芸術科（書道）担当教員等	定 員	参集	0名
			オンライン	40名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	書道教育における鑑賞の授業の工夫 ー知的財産権を踏まえた鑑賞指導の在り方ー		
研修内容の概要	美術館・博物館（台東区立書道博物館）の学芸員による知的財産権に関わる講義、現職教員による鑑賞の授業実践報告を通して、書道教育における鑑賞の授業の工夫について理解を深める。		
	[学習指導要領との関連] 高等学校芸術科（書道）：「B鑑賞」(1)鑑賞 ア(ア) (イ) イ(ア)(イ)(ウ)(エ)、〔共通事項〕(1) ア イ、 「内容の取扱い」(5)(9)(10)(11)		
内容と方法	1、台東区立書道博物館の学芸員の視点からの知的財産権を踏まえた鑑賞の授業についての講義 2、現職教員による鑑賞の授業実践報告、研究協議 3、教科調査官による指導・助言		
到達目標	新学習指導要領の趣旨を理解するとともに、知的財産権に配慮した鑑賞の授業を工夫できるようにする。		
スケジュール	09:30～11:45	開講式、全体研修、理論研修	オンライン配信
	11:45～13:00	休憩	
	13:00～13:10	研修前のオリエンテーション	オンライン
	13:10～14:10	学芸員による知的財産権を踏まえた鑑賞の授業についての講義	オンライン
	14:10～14:20	休憩	
	14:20～15:20	現職教員による鑑賞の授業実践報告	オンライン
	15:20～16:10	研究協議	オンライン
	16:10～16:20	休憩	
	16:20～16:40	全体講評、閉講式	オンライン配信
教材・持ち物等	・ 事前配付資料 ・ 高等学校学習指導要領解説 芸術編（各自の必要に応じて）		
特記事項	・ 事前・事後課題の有無： 無 ・ 資料の配布方法： 研修会専用ホームページよりダウンロード ・ 受講する上での環境条件等： ZOOMの視聴が可能なネットワーク環境		